

(1) 薬理學の系統講義の開始時期は解剖學、生理學、生化学あるいは細菌學の進捗状況とに組み合せて行うべきである。就中、生理學の講義の進み方との關聯性が深い。

薬理の開始時期は大体は病理學と同じ位なのか或は之よりも幾分早目であつてもよいと思われれる。しかし臨床科目の始まる時には終了していることが望ましい。また看護學などの關聯性についても考慮すべきように思う。學科の開始時期、終了時期をその學科單独にではなく、相互關係を考慮に入れて、相對的時期をも兼ね合せて考慮していただきたい。

(2) 解剖學、生理學、生化学などの終了は薬理學の理解に非常に大きく資すること、三月以前と四月以降では歸する方向から推察できる。このような点を考慮すれば、解剖學、生理學などの學期の前半に仕上げてしまつて、薬理は専ら後半に廻すというのも一つの方便であらうか。昨年のように看護學を比較的先にすくんでしまふといふことは、薬理の講義には辛い。

(3) 系統的な薬理の開始時期にかゝらざる、秋休みの集中講義には、終り頃には断片的にしても薬理も参加させて戴いた方が都合が甚だ宜しい。

(4) パネルの題名については充分な予告期間をいただきたい。薬理の都合から言つて内命の全般あるいはその一部がよいように思う。しかしこの前にも一回の薬理の講義があること、そもそも薬理學とはといふやうなことをこのときになつて述べなければならぬが、具合が悪い。

(5) 次にこれは別個に内命と各科の重複をどうするかとこの点は問題があると思う。余り重つては、殊に同じことを述べられたのでは無いともいへるであらう。そのように、パネルでは如何かと提案する。なお、化驗室法については別に宜しく願ひたい。